

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年12月25日

【2017年12月16日～2017年12月22日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・リアルは、対米ドル、対円で下落しました。また、2年国債金利は低下しました。

下院における年金改革法案の採決が2018年2月に延期されたことで、同法案の成立が困難になるとの悲観的な見方がブラジル金融市場に広がりました。さらに、公務員の給与増額調整の凍結と年金負担率引き上げを行うための政令をブラジル連邦最高裁が差し止めたことで、国家財政健全化の動きが一段と後退すると懸念が高まりました。こうした状況を受けて、週前半は長期金利が上昇しました。

週後半に入ると、ブラジル中央銀行の四半期インフレ報告が発表され、2018年前半のインフレ見通しが下方修正されました。これを受けて、2018年2月の次回金融政策委員会における追加利下げの可能性が一段と高まったことから、債券には買い安心感が広がり、短期金利および長期金利がともに低下しました。

経済指標に関しましては、経済活動指数やインフレ率(IPCA-15)が発表されました。前者は市場予想を上回る数字でしたが、金融市場への影響は限定的でした。

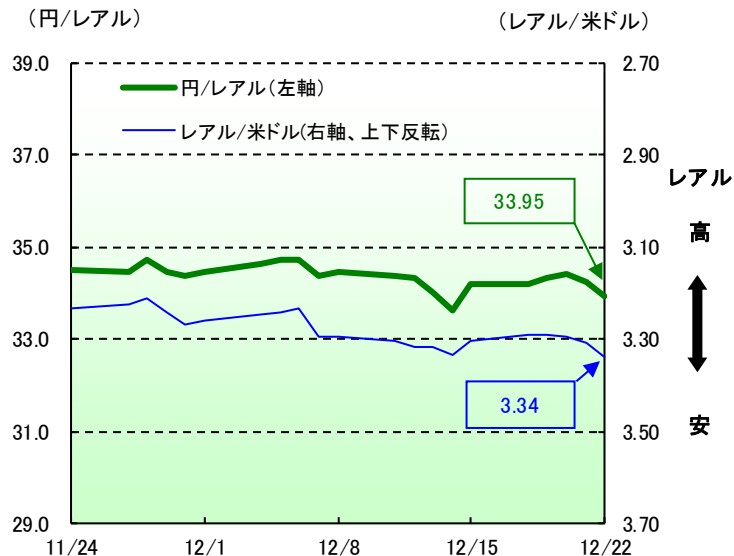
【2】今週の見通し

12月22日(現地、以下同様)をもってブラジル連邦議会が休会期間に入ったことに加え、25日はクリスマスで休場になることから、ブラジル金融市場は全般的に動意の乏しい展開を想定しています。ただし、大手格付け会社のうち1社がブラジルの格付けについて何らかの決定を行うとの観測もあり、格下げの有無には注意が必要です。年金改革法案の採決延期が決定された後、メイレス財務相は大手格付け会社3社と格下げ回避に向けた交渉を行っており、2018年2月に予定されている採決の行方が明らかとなるまでは格下げは回避される可能性が高いと考えています。

経済指標につきましては、月次の基礎的財政収支など国家財政に関する複数の指標が発表される予定となっています。

【ブラジル・リアル 為替推移】

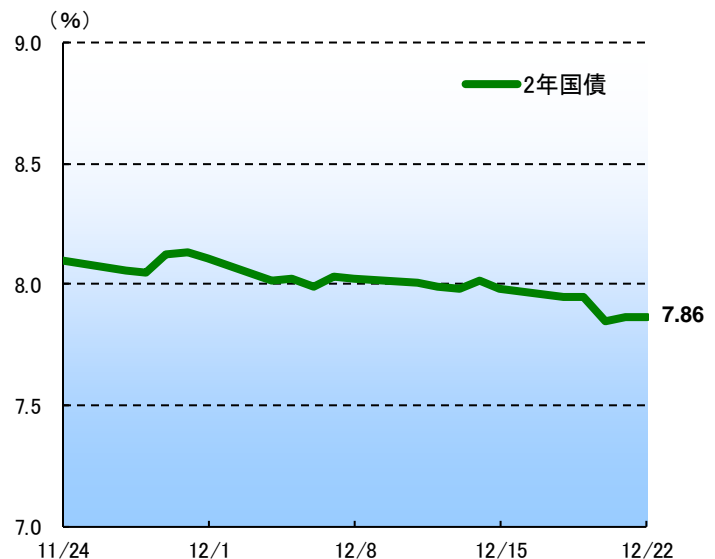
(2017年11月24日～2017年12月22日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2017年11月24日～2017年12月22日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>